



トラディショナル、モダン、オーセンティック、アーティスティック…タイルの表現領域は無限大。さまざまな空間に美しい表情をもたらす

TILE BEAUTY IN EVERYDAY CRAFT.

都市の日常を、タイルでデザインする

東京の松屋銀座の地下通路には、燦然と輝くタイルの意匠がある。2019年、松屋銀座150周年のリニューアルの際に、グラフィックデザイナー佐藤卓さんにより施された黄金色の彩りは、10本の円柱に番号がつけられ、素材は美濃焼タイルが用いられている。デザインのモチーフは、ニューヨークやヨーロッパの駅構内に施されたタイル装飾で、トラディショナルな趣とファッショナブルなモダン感覚が交差する。柱の数字により、待ち合わせ場所として利用されているという。

文字の形は職人がタイルを手で割って作られ、細部の緻密な仕上がりに圧倒される。壁面にもタイルが施され、あえて表面を不均等にすることで陰影が出るように工夫されているという。「セラミックバレー美濃」のプロジェクトに携わり、幼い頃からタイルに魅せられていた佐藤さん。古き良き銀座の雰囲気と、洗練された空間美が融合する、この通りには都市の日常をタイルでデザインすることへの熱い思いが込められている。